

# 一所懸命

## \*\*\* 人権学習講話 \*\*\*

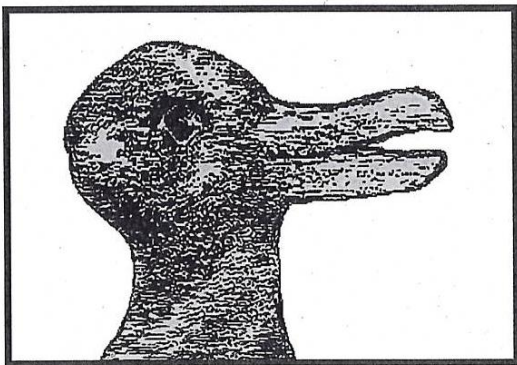
11月15日(木)に生涯学習課の平健太さんを講師としてお招きし、人権講話とワークショップを行いました。今回の講話とワークショップの「めあて」は、

- ① 学校生活の中にある人権に関わる問題に気づき、自分の問題として考えること。
- ② 人によって見方や感じ方がちがうことに気付いたり、互いの意見を認め合ったりすることを通して、自他の人権を尊重しようとする意欲を高めること。

として、話が進められました。まずは、私たちと平先生の緊張をほぐすために、セブンイレブンじゃんけん(各自が出した指の本数の合計が7か11になればOK)や心を合わせてじゃんけん(じゃんけんの手がみんなそろったらOK)の2つのアイスブレイクからスタートしました。ゲームの後は、みんな笑顔の花が咲き、一気にその場の緊張がほぐれていきました。



## \*\*\* 何に見えますか? \*\*\*

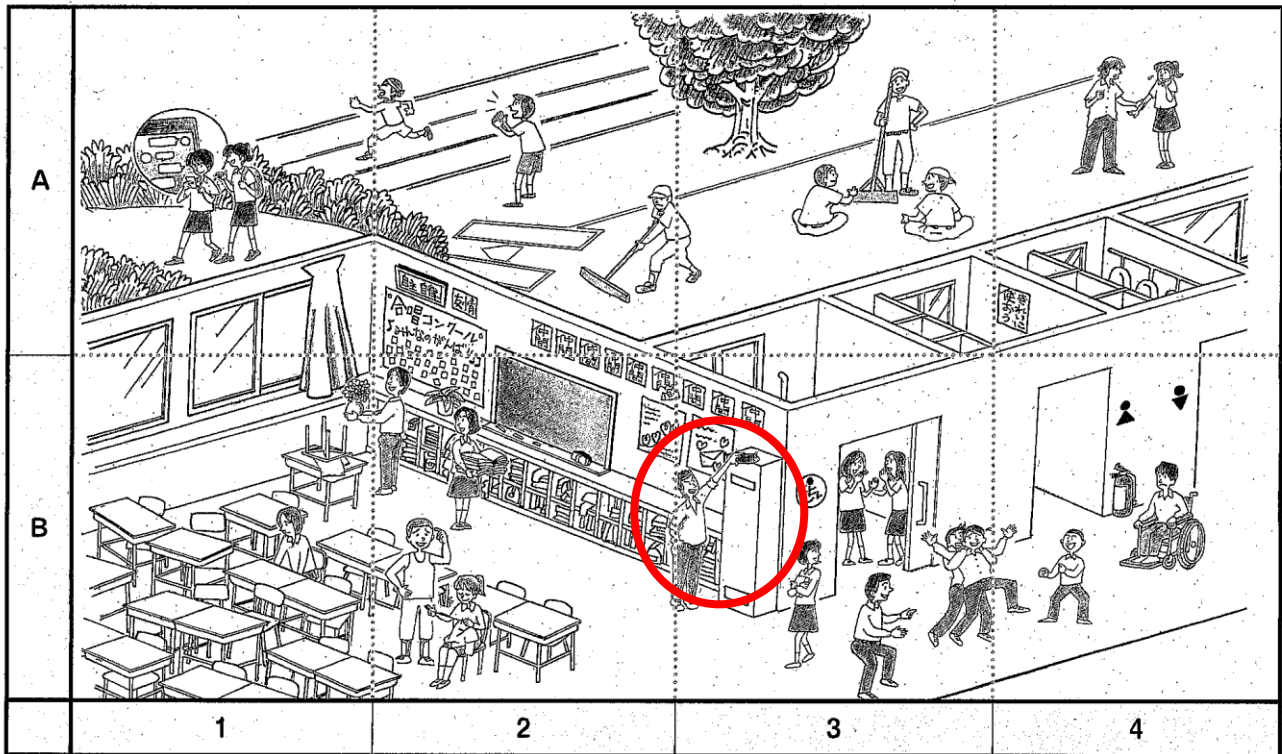


この左のイラストは、みなさんは何に見えますでしょうか。「鳥？」それとも「うさぎ」？見る視点を変えると、一つのイラストも鳥に見えたり、うさぎに見えたり……。しかし、一旦「鳥」だと思い込むともう一つのイラストが見えてきづらくなります。児童・生徒ともにイラストをじっと眺めながら、「なるほど～」「見えた！」などの声が聞こえてきました。教員からは、「我ながら頭がかたかった～。見えなかった」とくやしがる声も聞こえてきました。

これは、「思い込み」が関係するのではないかと思いました。一旦、この絵は「鳥だ！」と思うとそれ以外の絵には見えなくなってしまいます。しかし、講師の方の「実はもう一つ動物が隠れています」というアドバイスで、もう一つの動物を探そうという視点ももらい、もう1匹の存在に気付くことができます。人間関係も同じではないかと感じました。その人を「思い込み」で決めつけるのではなく、柔軟な目で見ること、その人のいろいろな面に気付けるのかなどこのアクティビティーを通して、考えることができました。

最後のアクティビティーでは、学校の一場面を切り取ったイラストに、「人権が尊重されている場面」には◎を、「どちらともいえない場面」には？を、「人権が侵害されている場面」には△を書き込みました。児童・生徒ともにたくさんの◎や？、△を書き込むことができました。

みなさんなら、どこに何を書き込みますか？自分自身で書き込んだあと、みんなでどんなところにどんな印をつけたか、互いに共有しあいました。



私は、上のイラスト赤丸をしたところに、△を書き込みました。私には、男の子がだれかの筆箱をロッカーの上に隠しているように見えたからです。そうすると、池島っ子は、「？」の印をつけたと話してくれました。どうして？と聞くと、「もしかすると、誰かに隠された筆箱をこの子がとってあげている場面かもしれない」と話してくれました。「なるほど！！」私は、イラスト男の子の表情や服装などの「見た目」で「悪いことをしている」と決めつけていたことに気付かされました。このアクティビティーを通して、人によって見方や感じ方が違うことに改めて気付くことができました。



今回の講話を通して、「人権問題」は身近にあって、自分たちの発する言動においても受け止める側の気持ちがあることを知り、「言葉の重みを意識して生活する」こと、互いの人権を守るために、「相手の立場になって考えたり感じたりする」ことが大切であることを学ぶことができました。平健太先生、本当にありがとうございました。